

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	介護予防事業の推進
------	-----------

### 現状と課題

介護予防活動としては、運動機能向上事業（かわごえパワーステーション）、低栄養予防事業（体にええよ～教室）、口腔機能向上事業（健口教室）、閉じこもり予防事業（あつまれ！オールだー's）を一般介護予防事業として実施しています。介護予防、認知症予防の意識の高まりを受けて、予想を上回る参加を得ています。また、健康推進委員による地区教室においては、川越町ご当地体操の「キラキラ体操」を普及しています。しかし、短期集中サービスについては、該当者はいるものの、対象となる利用者が少ないことから、サービスを利用しやすくする方策を検討する必要があります。

### 第8期における具体的な取組

- ① 介護予防対象者の把握
- ② 介護予防の普及啓発
- ③ 地域における介護予防活動への支援
- ④ リハビリテーション活動への支援
- ⑤ 高齢者の保健事業との一体的実施

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
一般介護予防事業への延べ参加者数	人	1,030	1,000	1,100	1,200
自立支援のための個別ケア会議の開催回数	回	6	6	6	6
保健事業と介護予防事業の一体的実施のための対象者へのアプローチ件数	件	—	100	100	100

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・ 各種の一般介護予防事業への参加延べ人数をカウントする。
  - ・ 自立支援型地域ケア会議の開催回数をカウントする。
  - ・ 保健事業と介護予防事業の一体的実施の対象者を抽出し、アプローチした件数をカウントする。

## 取組と目標に対する自己評価シート

<b>タイトル</b>	介護予防事業の推進	<b>年度</b>	令3/最終
-------------	-----------	-----------	-------

<b>実施内容</b>
<p>① 地域包括支援センターでの相談や訪問、民生委員、福祉協力員、主治医等からの情報収集、各地区に出向く事業の実施などを通じて何らかの支援を必要とする高齢者を把握し、介護予防教室やふれあいサービスに繋げている。</p> <p>② 認知症予防事業「認ニン！教室」は感染対策を講じ、延べ175名の参加があった。閉じこもり予防事業「新オールだー'Sだよ 全員集合」は感染対策を講じ、計画10地区中4地区で2部制で実施し、延べ50名の参加があった。 運動機能向上事業は、コロナ対策を講じた上で開催。6月と10月は、中止分を補う形で月4回実施した。まん延防止期間中に講師が来所できない時期は中止せずに、ZOOM開催を行った。低栄養予防事業、口腔機能向上事業については、10月以降に5地区で開催予定であったが、まん延防止期間中に1地区が中止となり、4地区で開催した。運動機能向上事業延べ参加者人数619名、口腔、低栄養事業(口腔栄養教室)延べ43名</p> <p>③ 健康かわごえ推進委員による地区教室は、コロナ感染症拡大により、開催できたのは3地区のみであった。百歳体操は各地区にて感染予防の上開催。なお、地区によって中止していた時期もあったが、令和4年度に新たな地区で開始できるよう調整していく。</p> <p>また、町民への介護予防活動の周知・啓発として、コロナ禍における在宅での運動指導「吉日体操」をシリーズで作成し、CCNetにおいて放映しパンフレットを作成して配布した。</p> <p>④ 地域包括支援センターの理学療法士が地区で行う老人クラブ等の集いの場において、「吉日体操」を運動指導として実践した。1地区1回</p> <p>⑤ 7月に今年度75歳になる127名に後期高齢者質問票を送付。返信があった方69名のうち気になる回答の方や、返信がなくても健診の未受診者、レセプトより医療機関への受診歴がない方など、29名の訪問に繋げることができた。</p>

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
一般介護予防事業への延べ参加者数	人	1,030	1,000	924	B
理由	新型コロナウイルス感染予防の観点から閉じこもり予防事業は一部の地区で中止となった。介護予防事業は6月より感染予防対策を講じながら実施した。				
自立支援のための個別ケア会議の開催回数	回	6	6	6	B
理由	多職種専門職からの助言等を参考にケース検討を行い、自立支援に向けての支援方針や対応について地域ケア会議にて協議した。				
保健事業と介護予防事業の一体化のための対象者へのアプローチ件数	件	—	100	127	B
理由	127名に質問票の送付によるアプローチを実施し29名を訪問。保健指導、栄養指導、介護予防事業の紹介や受診勧奨を行った。				
					選択
理由					

### 課題と対応策

一般介護予防事業について、新型コロナウイルス感染予防により、計画通り事業が進まない時期もあったが、感染対策を講じての実施や、10月以降ZOOMで開催を行うなど、できる限り継続できる方法を検討した。今後もコロナ禍だからこそ介護予防がより一層重要になることからオンライン開催などを取り入れていきたい。また令和5年度から本格的に開始予定の一体化事業では高齢者の通いの場が必要であるため、地区教室や介護予防事業への参加勧奨を積極的に行いたい。

また、高齢者にとって、コロナ禍でも介護予防は重要なため、電話での個別のやりとりや、実施できる時期に可能な限り訪問を実施するなど、参加者や要訪問者とながりを作る必要がある。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	生活支援サービス事業の推進
------	---------------

### 現状と課題

予防給付サービスから介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）への移行がスムーズに進み、事業対象者数（各年度10月1日現在）が平成30（2018）年度5人、令和元（2019）年度14人、令和2（2020）年度26人と増加し、総合事業の利用者が増加するとともに、関係機関との連携によって、介護保険サービスの「卒業」をめざした自立支援型のケアマネジメントを行っています。今後は、本人にも、サービス提供側にも、ケアマネジメントする側にも、各々「卒業」の視点を持つことが必要です。

また、生活支援のためのふれあいホームヘルプ、ふれあいデイサービス、地域におけるサロンとの連携が必要です。住民主体型サービスについても検討し、地域における共助を進めていくことが求められます。

### 第8期における具体的な取組

- ① 訪問・通所型サービスの提供
- ② 介護予防ケアマネジメントの実施

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
訪問型・通所型の従来相当サービスの延べ利用者数	人	528	530	570	620
訪問型・通所型の短期集中サービスの延べ利用者数	人	40	61	61	61

### 目標の評価方法

● 時点

- 中間見直しあり
  実績評価のみ

● 評価の方法

- ・ 訪問型及び通所型の従来相当サービスの延べ利用人数をカウントする。
- ・ 訪問型及び通所型の短期集中サービスの延べ利用人数をカウントする。
- ・
- ・
- ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	生活支援サービス事業の推進	年度	令3/最終
------	---------------	----	-------

### 実施内容

- ① 新規相談受付や認定更新時のスクリーニングが的確にできており、ニーズにあったサービスにつないでいる。また、コロナ禍の影響により高齢者の心身機能の低下等により要支援者が増加傾向であり、訪問・通所型従来型相当サービスの利用者もそれに伴い増えている。
- 通所型短期集中サービスである栄養改善指導サービスについては、特定健診結果よりBMIの低い方を抽出し、栄養指導を行なった。また、前年度より引き続き対象になる方が多いが、継続的に支援を行なっている。利用者12人。
- ② 丁寧なアセスメントとケアマネ連絡会や個別ケア会議等を通じ、関係機関との連携によって、重度化防止を図ることとあわせて介護保険サービスの卒業を目指した自立支援型のケアマネジメントを行っている。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
訪問型・通所型の従来相当サービスの延べ利用者数	人	528	530	661	A
理由	新規相談受付や認定更新時のスクリーニングが的確にできており、ニーズにあったサービスにつなげ、利用者も計画を上回っている。				
訪問型・通所型の短期集中サービスの延べ利用者数	人	40	61	12	D
理由	訪問型は0人だが、通所型については、12人の利用であった。				
					選択
理由					
					選択

### 課題と対応策

従来の介護予防訪問介護に相当する訪問型サービスについては、前年度に比べても利用が増えている一方、短期集中サービスについては訪問型の利用が0人となっている。事業対象者は今後も増加するものと見込まれることから、「卒業」を目指したケアマネジメントとともに、基準緩和型などサービスの多様化を検討することが求められる。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	地域包括ケア体制の構築
------	-------------

### 現状と課題

地域包括支援センターの機能強化としては、認知症初期集中支援チーム及び認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーターの体制が軌道に乗り、関係機関や地域との情報共有、連携を進めることができました。

一方、地域ケア会議についても各関係機関との情報共有、役割を明確にし、課題解決への支援をすることができました。今後は地域ケア会議の実施内容を整理し、地域課題の把握・対応につなげることや自立支援にも寄与する地域ケア会議の実施、「8050問題」や精神疾患の方などへの支援にもつなげられる方策の検討が必要です。

### 第8期における具体的な取組

- ① 地域包括支援センターの機能強化
- ② 地域ケア会議の開催

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
地域ケア会議の開催回数	回	8	8	8	8

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり                       実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・ 各レベルの地域ケア会議（包括ケア会議、個別ケア会議）の開催総数をカウントする。
  - ・
  - ・
  - ・
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	地域包括ケア体制の構築	年度	令3/最終
------	-------------	----	-------

### 実施内容

- ① 各地区の情報共有会議への参加などにより、効果的に情報共有を行い地域との連携が出来た。地域関係者や住民からの情報をもとに自立支援や重症化防止に繋がったケースもある。地域ケア個別会議などを通じて、関係専門職や町関係機関との連携・役割分担も出来ている。
- ② 個別ケア会議を定期的に6回開催。各関係機関と情報を共有し、多職種による専門的視点から課題解決に向けての支援に繋げている。県の地域ケア会議活動支援アドバイザー派遣事業を利用し、県より派遣された広域支援員が12月開催の会議に参加し、会議運営に対する助言等を頂いた。また近隣町の地域ケア会議を見学、会議参加者の見直し等を含めて検討した。  
地域ケア推進会議については、新型コロナウイルス感染症拡大により2月の書面会議の1回のみ開催となった。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
地域ケア会議の開催回数	回	8	8	7	B
理由	緊急事態宣言中に地域ケア推進会議の中止が1回あったが、その他は、計画通り実施した。				
					選択
理由					
					選択
理由					
					選択
理由					

### 課題と対応策

地域ケア会議にて困難事例などを中心に個別のケース検討を行っているが、複雑化・複合化したケースが多く支援ニーズは多岐にわたる。多職種専門職や関係機関、地域とのネットワーク連携の機能をさらに強化し、支援の役割分担を進め、自立支援型に向けた検討を行っていく必要がある。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	組織間の連携強化
------	----------

### 現状と課題

多職種連携の機会づくりとして、地域ケア個別会議、ケアマネ連絡会及びサービス事業者間会議を開催し、事業所等との関係を構築し、困りごとや課題を共有するとともに、ケアマネジャーや事業所が行政と一緒に解決していける体制づくりができつつあります。今後は、マネジメントやサービスの質の向上に向けて、研修後に個別にフィードバックし、個別事例への助言指導ができるような体制構築が必要です。

### 第8期における具体的な取組

- ① 多職種連携の推進
- ② ケアマネジャーの支援及び連携
- ③ サービス事業者間の連携

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
地域包括ケア研修会の開催回数	回	0	6	6	6
サービス事業者連絡会議の開催回数	回	6	6	6	6

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・ 地域包括ケアシステムにかかる各種研修会の開催回数をカウントする。
  - ・ サービス事業者連絡会議の開催回数をカウントする。
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

<b>タイトル</b>	組織間の連携強化	<b>年度</b>	令3/最終
-------------	----------	-----------	-------

### 実施内容

- ① 地域ケア個別会議を6回開催し、関係機関との情報共有、役割分担が出来ている。町民向けである地域包括ケア研修会は新型コロナ感染予防の観点から開催できていないが、「生活・介護支援サポーター養成講座」にて地域包括ケア・川越町の取り組みについて受講者(町民)に対して伝えることが出来た。
- ② ケアマネ連絡会を6回開催し、医療と介護の連携シート、低栄養予防事業、地域包括ケア病棟、薬局・薬剤師との連携、令和3年度介護保険報酬改定、精神科病院との連携についてそれぞれ外部から講師を招き勉強会を実施し、管内のケアマネジャーの関係づくり・資質向上を図った(12・2月については新型コロナウイルス感染予防の観点からZOOMまたはハイブリッドで実施した)。連絡会前には各事業所を訪問し、案内文書をケアマネジャーに手渡しする際、悩みごとなど個々に聞き取りをしており、その都度相談に乗っている。
- ③ 介護保険サービス事業者間会議を6回開催し、保険者からの情報提供や管内の介護保険事業者の顔の見える関係づくり、情報共有の場とした。第3回・5回・6回は感染拡大防止のためオンラインで会議を行った。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
地域包括ケア研修会の開催回数	回	0	6	2	C
理由	新型コロナウイルス感染予防の観点から1回(2月開催予定分)が延期となった。				
サービス事業者連絡会議の開催回数	回	6	6	6	B
理由	計画どおり通り開催できた。				
					選択
理由					
					選択
理由					

### 課題と対応策

新型コロナ感染予防の制約の中、地域ケア個別会議、ケアマネ連絡会、サービス事業者間会議は一部オンライン形式等で行い、計画通り開催することができた。不特定多数が集まる地域包括ケア研修会は開催することができないが、「新しい生活様式」の元での連携・共有機会を設ける必要があり、内容の充実とともに実施方法等の工夫が求められる。



## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	介護予防・生活支援の基盤づくり
------	-----------------

### 現状と課題

地域における介護予防・生活支援の基盤づくりについては、生活支援コーディネーターが継続して各地区の情報共有会議に参加し、ニーズや課題を把握するとともに、それに対する情報提供を行い、地域での見守り活動などにつなげています。今後は、地域差や地域の実情を踏まえた対応を行い、多様な主体の掘り起こしにつなげるとともに、生活支援コーディネーターの位置づけを明確にしなが、専門機関との連携を図っていくことが求められます。

### 第8期における具体的な取組

- ① 多様な主体による活動の促進
- ② 生活支援のコーディネート

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
生活支援コーディネーターによる支援件数	件	45	50	50	50

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・ 生活支援コーディネーターが地域等に対して支援した回数をカウントする。
  - ・
  - ・
  - ・
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	介護予防・生活支援の基盤づくり	年度	令3/最終
------	-----------------	----	-------

### 実施内容

- ① 継続して情報共有会議へ参加し、地域特性、ニーズ、課題の把握に努めている。具体化、明確化したニーズや課題に対して必要に応じ情報提供し、地域での見守り活動に繋げている。
- ② コロナ禍の支援として6月・8月・9月・12月・2月に企業等の協力を得て緊急食糧支援を実施し、延べ104件に対して支援を実施。4地区の情報共有会議に参加し、情報の収集をおこない、個別の課題については地域ケア会議の場で各機関へ周知した。また介護保険では対応が難しいケースについては、「ちょボラ」と協同することで利用者の希望する支援へと繋げている。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
生活支援コーディネーターによる支援件数	件	45	50	40	C
理由	個別ケースの対応がほとんどであり協議体としての組織づくり活動にまで至っていないが、支援は重ねることができている。				選択
理由					選択
理由					選択
理由					選択

### 課題と対応策

現時点では個別のケース対応が多く、協議体としての組織づくり活動にまで至っていないが、個別ケースへの対応の中から「ちょボラ」や「憩いの場」につなげることができている。今後も継続して会議等に出席し情報を収集するとともに、関係機関と連携しながら、必要とされている地域資源を発掘することが課題である。また生活支援コーディネーターを知ってもらえるような周知活動も必要と考える。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	総合的な認知症施策の推進
------	--------------

### 現状と課題

認知症に対する取り組みについては、「もの忘れ相談室」や「認ニン！教室」を継続して開催するとともに、認知症初期集中支援チームによる支援を行っています。また、地域で認知症の人や家族を支えるため、認知症サポーター養成講座やステップアップ講座を開催するとともに、事業所の協力を得ながら「認知症カフェ」を開催しています。認知症に対する意識は向上し、早めの対応の必要性についての認識が高まっていますが、今後も必要な方にできるだけ早く支援が届くような体制づくりと、地域における理解の向上を図ることが必要です。さらに、ひとり歩きに対する対応として、探索システムの構築に向けて取り組んでおり、支援者の登録呼びかけとともに周知を図っていくことが必要です。

### 第8期における具体的な取組

- ① 認知症予防の推進
- ② 認知症ケアの推進
- ③ 認知症への理解の推進
- ④ 認知症の人の見守りの推進
- ⑤ 認知症介護家族への支援
- ⑥ 若年性認知症に対する取り組み

### 目標(事業内容、指標等)

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
認知症サポーター養成講座 修了者数(累計)	人	758	800	850	900
初期集中支援チームの個別訪問件数	件	71	200	200	200

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・ 認知症サポーターとして養成講座を修了した人の累計人数をカウントする。
  - ・ 認知症初期集中支援チームが個別訪問をした件数をカウントする。

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	総合的な認知症施策の推進	年度	令3/最終
------	--------------	----	-------

### 実施内容

- ① 「認ニン！教室」を毎月1回開催し、延べ175名が参加。9月は新型コロナウイルス緊急事態宣言が発令されたため中止とした。5月・2月に体力測定を実施し、3月にお楽しみ会として工作とご自身の機能を改めて振り返った。
- ② 「もの忘れ相談室」利用者延べ18人(実人数10人)であり、周知が進み、当事者の周辺や川越診療所等から相談が増えている。新型コロナウイルス感染予防の観点から、緊急事態宣言中等はサポート医の助言により中止した。認知症初期集中支援チームの支援対象者は総人数398人(実人数69人)、訪問件数166件。医療や介護保険サービスに繋がり終結となった事例が32件あった。訪問が困難な状況下では電話にて対応をおこなった。
- ③ 認知症サポーター養成講座を3回開催し(介護事業所・小学生)、17名の参加があった。新型コロナウイルス感染予防の観点から講座開催が困難であった。  
次年度、小・中学校において、学校の総合学習の中で、地域支援センター職員が講師となり、高齢者や認知症の理解を深める授業を展開するため、学校教育課と協議し、校長会にて案内した。
- ④ 引き続き、行政・介護保険事業所・民生委員児童委員・福祉協力員との情報共有を定期的に行いネットワークの構築を継続的に進め、見守り体制の推進・認知症ケアパスの周知を図っている。商業施設2件に認知症の方の見守り依頼を行った。また、徘徊ネットワーク構築の一環として徘徊見守り「QRコード」の導入、「チームオレンジ」の設置の準備をしている。
- ⑤ 「体験型カフェつどい」を感染対策に留意し9回開催した。延べ134名(実人数27名)の参加があった。認知症カフェは新型コロナ感染予防対策を行い、2か所8回開催し、延べ66名参加された。
- ⑥ 認知症総合施策の中で引き続き対応している。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
認知症サポーター養成講座 修了者数(累計)	人	758	800	809	B
理由	コロナ禍で出来る方法を検討し、行っている。				
初期集中支援チームの個別訪問件数	件	71	200	166	B
理由	訪問・電話にて必要な支援を適宜行っている。医療機関やケアマネジャーと連携し、包括的・継続的に支援で来ている。				
理由	選択				
理由	選択				

### 課題と対応策

認知症サポーターについては計画値を少し上回ったが、養成講座の開催自体難しい状況が続いている。認知症カフェについては1か所新たに立ち上げたが新型コロナウイルス感染予防の観点から実施出来ない時期もある。コロナ禍であり、外出機会の減少から認知機能の低下のおそれがあることから、認知症初期集中支援チームによる個別支援や地域のネットワークの構築がより一層求められる。また、若年性認知症に対する支援では情報把握が難しく、早期支援の対応に課題がある。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	在宅医療と介護の連携
------	------------

### 現状と課題

在宅医療に関する相談については、地域包括支援センターの24時間365日体制によって受け付け、必要な支援につなげています。特に川越診療所をはじめとする医療機関との連携体制が強化されるとともに、医師会との連携によって「退院時カンファレンスマニュアル」の導入が図られるなど、入退院時の支援が充実してきました。今後も、在宅医療やACP(アドバンス・ケア・プランニング)の考え方を周知し、希望する人の在宅での療養や看取りを実現していくことが求められます。

### 第8期における具体的な取組

- ① 医療と介護に関する情報の活用と共有
- ② 医療と介護の連携体制の構築
- ③ 在宅医療・介護にかかる相談体制の整備
- ④ 住民への普及啓発

### 目標(事業内容、指標等)

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
在宅医療・介護連携の相談件数	件	40	100	100	100
地域包括ケア研修会における医療知識の研修回数	回	0	1	1	1

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・ 在宅医療と介護の連携にかかわる地域包括支援センターへの相談件数をカウントする。
  - ・ 地域包括ケアシステムにかかる各種研修会のうち、医療知識に関するものの開催回数をカウントする。
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

<b>タイトル</b>	在宅医療と介護の連携	<b>年度</b>	令3/最終
-------------	------------	-----------	-------

### 実施内容

- ① 4月のケアマネ連絡会で「医療と介護の連携シート」を取り上げ、四日市市在宅医療・介護連携支援センター～つなぐ～からレクチャーを受けることで理解を深め、連携シートの啓発・普及を図り活用を呼び掛けた。四日市医師会地域連携室連絡会は新型コロナウイルス感染予防の観点からzoomでの情報共有となった。医師会内、各包括・居宅介護支援事業所などと連携を図り、必要な支援に繋げている。
- ② 四日市医師会の「退院時カンファレンスマニュアル」完成後の実践状況や改善点などを繰り返し共有した。さらに、「ACPマニュアル」、「これからノート」を管内ケアマネジャーへ啓発・共有し、状況確認のアンケートの実施やマニュアル改善に向けての聞き取りを継続している。  
川越診療所及び近隣病院との情報共有を日常的にしやすい関係性を構築、入退院時支援がスムーズに窓口へ繋がるようになった。特に、川越診療所においては地域ケア担当を置き、介護へのつなぎを意識した連携・相談・助言を継続的に行っている。
- ③ 24時間365日体制で相談できる窓口を設置、町民・関係機関との連携を行っており、在宅医療への移行や介護との連携がスムーズに行えることで早期退院につながっている。
- ④ 新型コロナ感染対策を講じ「介護予防と口腔ケア」というテーマで地域包括ケア研修会を開催し、11名参加。令和4年2月にACPをテーマにした研修会を実施する予定だったが新型コロナウイルスの感染状況を鑑み延期とした。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
在宅医療・介護連携の相談件数	件	40	100	115	A
理由	前期は新型コロナ感染拡大の影響もあり計画値を下回っていたが、後期以降必要な相談支援を行うことができた。				
地域包括ケア研修会における医療知識の研修回数	回	0	1	1	B
理由	新型コロナ感染症の拡大のため、一部事業の規模の縮小等もあったが、感染対策を行い実施することができた。▪				
					選択
理由					
					選択
理由					

### 課題と対応策

新型コロナ感染予防の制約から住民への普及啓発活動が困難な状況が続いているが、医療・介護の連携体制については引き続き強化されつつあり、支援のつながりがよくなっている。相談件数も年間を通じると計画値より上回り、昨年と比較しても増加しており、窓口の周知が徐々に浸透してきているとともに、医療ニーズが高まっている。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	地域での相互支援体制の充実
------	---------------

### 現状と課題

地域での支え合い体制を構築するため、生活・介護支援サポーター養成講座の開催を継続し、サポーターによる各地区のサロン活動の運営支援が行われています。また、福祉協力員養成講座、フォローアップ講座を開催し、福祉協力員の委嘱によって、各地区の民生委員やサポーターとともに情報共有会議を通じて地域福祉にかかる情報の共有化が図られています。しかし、生活・介護支援サポーターの登録数が減少しており、サポーターの高齢化とともに、いかに活動人数を増やしていくかが課題です。また、地域の福祉活動として、地区社会福祉協議会活動を促進していくことが求められます。

### 第8期における具体的な取組

- ① 地域福祉の担い手の育成
- ② 地域における通いの場づくり
- ③ 地域福祉活動の促進
- ④ ボランティアの育成・活動支援

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
生活・介護支援サポーター数	人	151	150	160	170
住民による通いの場の実施回数	回	0	80	80	80

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・生活・介護支援サポーターとして養成講座を終了した人の累計人数をカウントする。
  - ・住民による集いの場として開催された延べ回数をカウントする。
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	地域での相互支援体制の充実	年度	令3/最終
------	---------------	----	-------

### 実施内容

- ① 生活・介護支援サポーター養成講座については9月から4回講座開催の予定だったが新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から10月からの全3回に縮小して開催、県外からの講師にはオンデマンドでの講座とした。延べ45名が受講され、新規サポーター13名を養成した。
- ② 情報共有会議から抽出した地域ニーズに対し、マンション内の新規サロン立ち上げを支援し、11/22に第1回を開催した。マンション内に住む生活・介護支援サポーターがサロン運営に参画し、居場所づくりに取り組んでいるが、感染拡大防止のため他地区サロン含め定期的な開催に繋がっていない。
- ③ 地域福祉教育推進アドバイザーを招き、コロナ禍で出来る取り組みとあわせ、中長期的な地区社会福祉協議会活動の展開を各地区職員間で検討した。福祉協力員養成講座(11月5日・19日)をオンラインにて開催。委嘱式(12月14日)にて、新規8名、継続25名へ委嘱し、福祉協力員数が72名となった。既存の福祉協力員を対象としたフォローアップ研修(12月2・6・10日)を分散開催及び動画配信にて実施した。情報共有会議は感染対策を講じ対面にて開催、感染拡大時は電話での情報共有に切り替えることで、要支援者の継続的な情報共有を行った。
- ④ コロナ禍における主体的かつ継続的な活動の実施を目指し、ボランティア連絡協議会及び各ボランティアグループの支援を行った。食品ロス削減、生活困窮者支援を目的とした新たな取り組み「どうぞのつくえ」が活動拠点であるボランティアハウスささえあいにて始まり、12月16日、2月17日の定期開催に繋がっている。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
生活・介護支援サポーター数	人	151	150	160	B
理由	新規サポーター13名を要請。				
住民による通いの場の実施回数	回	0	80	11	D
理由	新型コロナウイルス感染予防の観点から休止や自粛が続いている。				
					選択
理由					
					選択
理由					

### 課題と対応策

新型コロナウイルス感染予防のために、生活・介護支援サポーターの養成についても縮小し、また、サポーターが支援する通いの場などの住民主体の活動も実施困難な状況であった。今後も、感染防止対策などの工夫を施しながら、実施していくことが求められる。



## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	福祉意識・福祉教育の充実
------	--------------

### 現状と課題

福祉意識については、社会福祉協議会だより「以心伝心」やSNSにより地域福祉に関する意識高揚が図られています。また、小・中学校における福祉教育や交流事業の実施により、福祉に対する理解が深められています。今後も、系統だった福祉意識の啓発と福祉教育により、認知症や障害に対する理解を深めていく必要があります。

敬老事業については、75歳以上の人への敬老年金の支給、95歳・100歳到達者への褒賞の授与とともに、敬老会を開催しています。

### 第8期における具体的な取組

- ① 福祉活動についての広報の充実
- ② 学校や地域における福祉教育の推進
- ③ 敬老事業

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
蛸雪学園受講者数	人	0	50	50	50

### 目標の評価方法

- 時点  
 中間見直しあり                       実績評価のみ
- 評価の方法
- ・ 蛸雪学園の受講者数をカウントする。
  - ・
  - ・
  - ・
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	福祉意識・福祉教育の充実	年度	令3/最終
------	--------------	----	-------

### 実施内容

- ① 以心伝心を年4回発行。ホームページ、SNSとの連動とあわせ、住民参加型のコーナー「ふくしの写真展」の新設等紙面の見直しを実施。町内の公共・商業施設等24ヶ所へ設置している。インスタグラムを開設、ホームページをリニューアルし、知りたい情報から検索できるよう改善、ようこそ動画を導入した。
- ② 新型コロナウイルス感染防止対策を実施し、6月23日に北小学校の3年生を対象にデイサービスや福祉についての授業を実施した。冬休みに地域の方を講師に招いた親子体験教室(12月18日)を開催し、12組が参加。世代間交流の場となった。
- ③ 敬老年金・・・75歳～90歳未満の方、一律6,000円支給(1,330人対象)、90歳以上の方は、一律10,000円支給(156人対象)。  
 コロナウイルス感染症の感染予防のため敬老会は中止した。70歳以上の対象者へお祝いの品、米寿・最高齢の方へは記念品を送付した。  
 長寿者褒賞金として、前期については、95歳の方へ10万円(3人)、100歳の方へ100万円(1人)を贈呈した。後期については、95歳の方へ10万円(7人)、100歳の方へ100万円(3人)を贈呈した。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
蛍雪学園受講者数	人	0	50	86	A
理由	コロナウイルス感染防止により、9月、1月の開催はできなかったが、その他の8回については、計画通り実施した。				
					選択
理由					
					選択
理由					
					選択
理由					

### 課題と対応策

新型コロナ感染予防のための制約がある中、広報活動や学校での福祉教育は実施している。一方、蛍雪学園については、昨年度、感染症対策のため通年開校できなかったが、今年度は、感染防止対策を行い通年開校として8回実施することができた。敬老事業については、敬老会が中止となったが、敬老年金と長寿者褒賞金については、対象者に従来通り実施した。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	情報提供と総合相談の充実
------	--------------

### 現状と課題

総合相談窓口としての地域包括支援センターは、24時間365日対応で電話を受け付けているほか、必要に応じて訪問による相談にあたっています。地域包括支援センターの周知を図るため、「地域包括支援センターだより」を各戸配布し、加えて町内25か所にも設置しています。また、戸別訪問を継続して実施しており、住民の地域包括支援センターへの理解と関係づくりにつなげています。今後の課題としては、いわゆる「8050問題」を抱える世帯が増えてきており、これを注視していく必要があります。また、戸別訪問の記録をもとに情報共有し、必要な対応が迅速に取れるようにしておくことが必要です。

### 第8期における具体的な取組

- ① サービス情報の提供
- ② 総合相談窓口の充実

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
総合相談件数	件	2,100	2,150	2,200	2,250

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・ 地域包括支援センターにおける総合相談（来所、訪問、電話）の総件数をカウントする。
  - ・
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	情報提供と総合相談の充実	年度	令3/最終
------	--------------	----	-------

### 実施内容

① 地域包括支援センターだよりへの事業の紹介とともに、町民への周知・啓発として、ホームページへの掲載(バックナンバー)・CCNetにおいて、コロナ禍における在宅での運動指導「吉日体操」をシリーズで作成し、放映。番組の最後にジングルを使用し相談窓口の周知をしている。また、「吉日体操」パンフレットを作成し、研修会や介護予防事業・地区サロン等で配布した。  
また、3月号の町広報紙において、介護や医療、福祉、高齢者等の困りごとの相談窓口として、総合相談窓口の案内を掲載し、周知・啓発を行った。

② 「地域包括支援センターだより」の各戸配布とともに、町内設置26か所への配布は新型コロナウイルス感染対策の一環で2か所以外は継続し、町民からの問い合わせやご意見も増えている。  
また、戸別訪問を継続して実施しており、町民の地域包括支援センターへの理解と関係づくりにつながっている。  
生活困窮、障害などを含めた複合的な自立支援に対応すべく体制を検討し、令和4年度から介護保険事務を福祉課に所管変更し、一体的な支援や対応に繋がっている。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
総合相談件数	件	2,100	2,150	1,715	C
理由	コロナ禍においても、相談窓口の普及・啓発等を行い、本人や家族の不安や心配事の解消や必要な介護サービス・関係機関に繋げている。電話601件 訪問657件 来所219件 その他215件(1,692件)				
					選択
理由					
					選択
理由					
					選択
理由					

### 課題と対応策

新型コロナウイルス感染予防のため訪問を控えていた時期があり、昨年度よりも訪問件数は減少傾向だが、本人・家族からの相談窓口への連絡が増加しており相談窓口の周知が出来ていると考える。コロナ禍の外出制限や精神的不安で心身機能低下される方が増加している。その一方で、コロナ禍を通じてサービスの利用控えや心身機能の低下傾向がみられ、新規要支援者の認定数も増加してきており、コロナ禍及びコロナ後を見据えた相談体制への備えをしておくことが求められる。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	権利擁護の推進
------	---------

### 現状と課題

日常生活自立支援事業については、令和2年度現在9人の方への金銭管理の援助を行っています。相談事例の内容に応じて成年後見制度についての説明を行っていますが、日常生活自立支援事業から成年後見制度に移られた方がまだおらず、制度の認知度向上とともに、内容に対する理解を促していくことが求められます。今後、認知症高齢者、ひとり暮らし高齢者の増加に伴い、制度の需要は必ず高まってくると考えられることから、マニュアルの作成など、利用支援の準備を行う必要があります。

### 第8期における具体的な取組

- ① 権利擁護の推進
- ② 成年後見制度の啓発と利用促進

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
生活支援員数	人	6	7	7	7
日常生活自立支援事業による延べ支援回数	回	221	270	270	270

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり                       実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・ 生活支援員の人数をカウントする。
  - ・ 日常生活自立支援事業による権利擁護にかかる延べ支援回数をカウントする。
  - ・
  - ・
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	権利擁護の推進	年度	令3/最終
------	---------	----	-------

### 実施内容

① 日常生活自立支援事業については、利用者18名(新規7名、終了3名)となり、新規相談事例が31回となった。今後も障害者の支援が増えるとみこまれることから障害に対するフォローアップ研修を実施(7月19日)、また三重県社協が実施する研修(3/28ZOOM)を受講し、担当にあたる生活支援員と職員の資質向上を図った。また、引き続きコロナウイルス感染症拡大防止の策を講じた上で支援を実施。

② 成年後見制度に関する電話や来所による問い合わせが数件あり、既存の小冊子等を利用し説明を行った。また成年後見申立書作成支援が1件あり、家庭裁判所への問い合わせなど行い書類作成支援を行った。成年後見制度の利便性向上のため、法人後見を含む内容について近隣市町村社協に問い合わせし、検討を進めている。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
生活支援員数	人	6	7	5	C
理由	生活支援員増員を準備中。				
日常生活自立支援事業による延べ支援回数	回	221	270	279	B
理由	感染対策の為、引き続き訪問回数及び短時間の調整を行い支援を実施。				
					選択
理由					
					選択
理由					

### 課題と対応策

日常生活自立支援事業については、一人暮らし高齢者のみならずリスクを背負った方の利用が増えると見込まれるので、今後も職員・支援員の資質向上を図っていく必要がある。また、地域で日常生活自立支援事業そのものを知らない方に対して制度の内容をどのように周知していくことが課題である。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	虐待の防止
------	-------

### 現状と課題

高齢者虐待の未然防止、早期発見を図るため、介護認定調査時に虐待の可能性があるかどうか、独自のチェックリストを使用してチェックを行っています。該当ケースに対しては後追い調査を行い、必要に応じて早期支援につなげています。また、高齢者虐待ネットワーク会議を年2回開催しています。今後も虐待の未然防止策として有効な手立てを見出すため、ケアマネジャーが家族にも目を向けるよう促し、必要に応じて家族支援につなげられるような取り組みが必要です。

### 第8期における具体的な取組

- ① 虐待の未然防止
- ② 虐待に関する相談・支援

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
高齢者虐待防止ネットワーク会議開催回数	回	2	2	2	2

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり                       実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・ 高齢者虐待防止ネットワーク会議の開催回数をカウントする。
  - ・
  - ・
  - ・
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	虐待の防止	年度	令3/最終
------	-------	----	-------

### 実施内容

- ① 介護保険認定調査時、独自のチェックリストを使用し、調査員を通じて虐待の可能性を確認している。チェックリストを330件実施し、うちチェック該当件数92件に対し、後追い調査を行い、必要に応じて早期支援に繋がった。高齢者虐待ネットワーク会議については2回開催した。
- ② 担当ケアマネジャーや地域住民からの虐待疑いの報告を受け、速やかに行政へ連絡、担当者を集めてケース会議を開催し、情報共有と今後の支援方針について議論した。また、本人や関係者への聴き取りを丁寧に行い、事実確認も行った。地域における様々な関係者との連携体制を利用し、虐待だけでなく生活環境の異変の早期発見・見守りを継続的に行っている。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
高齢者虐待防止ネットワーク会議開催回数	回	2	2	2	B
理由	計画通りに実施できており、虐待の疑いが強ければケース会議等を開催するなどして対応している。				
					選択
理由					
					選択
理由					
					選択
理由					

### 課題と対応策

養護者による虐待の疑いの報告が増加しており、虐待の範囲に及んでいるという認識がないまま行為に至っているのではないかと思われるため、認知症や介護に対する正しい知識や対応方法を知っていれば未然に防げるであろう事例もあると考える。また虐待に対する案件の背景には、生活困窮、介護疲れ、養護者の障害・疾病の疑いなど複雑化しており、様々な関係機関との連携を含めた多様な視点からの支援がより必要となってきた。



## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	安全なまちづくり
------	----------

### 現状と課題

支援の必要な人に対する防災対策として、避難行動要支援者登録により、名簿の整備を進めています。今後は、災害時の地域支援者等の支援体制づくりとして、具体的な名簿の活用方法の検討を行う必要があります。

また、全国的に水害等の災害が頻発しており、ゼロメートル地帯を抱える本町においても介護サービス提供事業所を含めて、防災対策は喫緊の課題です。

### 第8期における具体的な取組

- ① 地域防災活動の促進
- ② サービス提供事業所における防災対策の促進

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
避難行動要支援者登録率(登録者数／対象者数)	%	※	60	65	70

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - 避難行動要支援者の対象となる人のうち、登録した人の割合をカウントする。
  - ※ 令2実績は計画策定時に未確定。
  - ・
  - ・
  - ・
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	安全なまちづくり	年度	令3/最終
------	----------	----	-------

### 実施内容

- ① 189名の対象者の方に避難行動要支援者登録同意書を発送した結果、72名の同意書の提出があった。今年度は、72名の新規登録者となった。  
前年度までに登録された方は345名で、内34名の方が死亡・転出等で異動があったことから、今年度登録は383名となった。(避難行動要支援対象者総数601名)
  
- ② 今年度、11月の事業者間会議において、町防災部局(安全環境課)と連携し、避難確保計画の策定の説明会、意見交換の場を実施し、全事業所の計画策定に繋げることができた。また、コロナ禍においても事業所における災害訓練等の実施の重要性を同会議にて周知・共有した。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
避難行動要支援者登録率(登録者数/対象者数)	%	※	60	0.64	B
理由	今年度は、以前の調査で未提出の方も含めて送付を行った。施設入所や近隣に親族がいる等で登録をされないという回答する方もいた。				
					選択
理由					
					選択
理由					
					選択
理由					

### 課題と対応策

登録されている方々の個々の状況に合った避難行動支援策の検討(個別支援計画の推進)を行うことが求められる。ただし、登録者それぞれに避難を促す人を配置したり、支援者の配置をする必要がある。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	高齢者による地域活動の促進
------	---------------

### 現状と課題

老人クラブについては、会員増強活動としてポッチャの導入を検討するとともに、単位クラブでは、継続して地域の行事に積極的に参加し、世代間交流に携わっています。ことぶき人材センターについては、新規会員の加入はあるものの、全体の会員数は減少しています。また、小学校や児童館、老人福祉センターにおけるクラブ活動支援として、囲碁将棋の手ほどきが行われています。今後も、高齢者の活躍の場づくりが期待されることから、老人クラブ、ことぶき人材センターなどの活動の活発化を図ることが求められます。

### 第8期における具体的な取組

- ① 老人クラブ活動の支援
- ② ことぶき人材センター事業
- ③ 自主活動の育成・支援

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
老人クラブ会員数	人	1,462	1,472	1,482	1,492

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・ 老人クラブの会員登録者数をカウントする。
  - ・
  - ・
  - ・
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

<b>タイトル</b>	高齢者による地域活動の促進	<b>年度</b>	令3/最終
-------------	---------------	-----------	-------

<b>実施内容</b>
<p>① 中止した月もあったが、コロナウイルス感染拡大防止の策を講じて定例会・役員会を実施。高齢者や寝たきりの方への友愛訪問、コロナ禍以前に教育センターで開催していた趣味の作品展CCNetの放送を通じて実施したほか、各単位クラブではグラウンドゴルフの練習や作品展等を実施し、コロナ禍でもできる活動へと繋げた。各地区役員にアンケートを実施し今後の老人会の活動や在り方について課題の抽出を行った。</p> <p>② 会員からの紹介もあったが、退会する会員もあり、会員数は減少となった。稼働率向上のため、稼働が少ない会員への業務案内を実施。また、安心して就業できるように必要な感染対策物品の支給および感染対策の指導を徹底した。</p> <p>③ コロナウイルス感染拡大防止の為、引き続き囲碁、将棋などの貸し出しは中止し、必要最小限度の利用に制限している。</p>

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
老人クラブ会員数	人	1,462	1,472	1,433	C
理由	新規の会員登録者が、本人の意志等により伸び悩んでいる。				
					選択
理由					
					選択
理由					
					選択
理由					

### 課題と対応策

アンケートを実施したことで、会員増強運動および魅力ある老人クラブについて検討するきっかけとなった。今後部会を作り、既存の活動を含め、老人クラブ活動をより充実したものにしていく。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	高齢者の移動手段の確保
------	-------------

### 現状と課題

本町は狭い町域の中に機能がコンパクトに凝縮されており、高齢者にとっても生活しやすいまちです。しかしながら、自家用車への依存度は高く、コミュニティバスの利用も必ずしも多くない現状があります。今後、高齢化が進むにつれて、運転免許証の自主返納者も増えることが予想されることから、日常生活を送る上でも、また社会参加を促す上でも、高齢者の移動手段をいかにして確保していくかが課題です。

### 第8期における具体的な取組

- ① 移動手段の検討

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・
  - ・
  - ・
  - ・
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	高齢者の移動手段の確保	年度	令3/最終
------	-------------	----	-------

### 実施内容

- ① 地域交通担当部局(企画情報課)と連携し、R4年3月に三重大学と協定を締結し、福祉バス(ふれあいバス)の適正化について検討を進めている。令和4年度中に福祉バスの適正化及びデマンド交通の導入に向けた検討会議や地域公共交通会議を設置し、事業を進める予定である。

### 自己評価結果

	指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
						選択
理由						
						選択
理由						
						選択
理由						
						選択
理由						

### 課題と対応策

現行のふれあいバス運行事業の見直しを含めて検討するとともに、利用者のニーズを反映し、効果的な事業を行うため、三重大学と連携し適正な運行ルートの検証を行う予定である。また、デマンド交通の導入など利便性の高い地域公共交通の整備を一体的に進める必要がある。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	介護保険サービスの提供と質の向上
------	------------------

### 現状と課題

介護保険サービスについては、計画に沿ったサービス基盤が維持されています。ケアマネジメントの質の向上を図るため、ケアプラン点検を実施するとともに、ケアマネ連絡会を開催しています。また、サービスの質の向上を図るため、介護事業所への介護相談員の派遣を行い、利用者の声、ニーズの把握に努めています。今後も、自立支援・重度化防止の視点を持ち、介護予防による「卒業」を意識した取り組みとともに、サービスの質の向上を促していく必要があります。

### 第8期における具体的な取組

- ① サービス提供基盤の確保
- ② サービス事業者の育成・指導
- ③ 介護相談員の派遣
- ④ ケアマネジャーの資質向上
- ⑤ 感染症等への備えの促進

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
介護相談員の派遣回数	回	17	24	24	24

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・ 介護施設への介護相談員の派遣回数をカウントする。
  - ・
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	介護保険サービスの提供と質の向上	年度	令3/最終
------	------------------	----	-------

### 実施内容

- ① 計画に沿ったサービス基盤が維持されている。
  
- ② 新型コロナ感染症の対策を講じた上、町指定の居宅介護支援事業所に対し、実施指導を行うことができた。  
 また、事業者間会議やケアマネ連絡会において、最新の介護保険情報の提供や共有を行うとともに、事業者とコロナ感染発生後等の対策について、研修及び意見交換を実施した。  
 また、事業者間会議にて、町災害対応部局と連携し、災害時の避難確保計画の策定に向けた説明会を実施した。
  
- ③ 新型コロナ感染症の拡大状況により派遣できない時期が多く、事業所での感染発生等もあり中止等を余儀なくされた。なお、感染状況が落ち着いた4月、7月、11月、12月、1月には介護相談員による通所系事業所への訪問を実施した。
  
- ④ ケアマネ連絡会を6回開催し、医療と介護の連携シート、低栄養予防事業、地域包括ケア病棟、薬局・薬剤師との連携、令和3年度介護保険報酬改定、精神科病院との連携についてそれぞれ外部から講師を招き勉強会を実施し、管内のケアマネジャーの関係づくり・資質向上を図った(12・2月については新型コロナウイルス感染予防の観点からZOOMまたはハイブリッドで実施した)。連絡会前には各事業所を訪問し、案内をケアマネジャーに手渡しする際、悩みごとなど個々に聞き取りをしており、その都度相談に乗っている。
  
- ⑤ 事業者間会議等を感染予防の観点から、ZOOMまたはハイブリッド形式で実施した。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
介護相談員の派遣回数	回	17	24	8	D
理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣中止が相次いだ。				
					選択
理由					
					選択
理由					
					選択
理由					

### 課題と対応策

新型コロナウイルス感染拡大により、介護相談員の事業所派遣活動について、多くの派遣中止を余儀なくされた。特にコロナ禍の中で施設系の訪問は、事業所が家族等の面会制限を行っている中、相談員を派遣する状況になく、課題である。  
 事業所で感染症等が発生した場合の個々の利用者に沿ったサービスの提供・継続と、感染拡大防止対策との両立の課題が見えた。



## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	要介護者等へのリハビリテーション
------	------------------

### 現状と課題

本町には訪問リハビリテーション、通所リハビリテーションのサービス提供事業所はないものの、周辺市町のサービスが利用され、訪問リハビリテーションは国・県並みの利用率まで高まってきましたが、通所リハビリテーションの利用率は国・県に比べると低い状況にあります。今後は、リハビリテーションサービスが有効と考えられる人にサービスが提供されるよう、ケアマネジャーを通じた情報提供などが求められます。

### 第8期における具体的な取組

- ① リハビリテーションサービス利用の促進
- ② 要介護者等の自立支援に向けたリハビリテーション専門職の関与

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
訪問リハビリテーションサービス利用率	%	2.20	2.27	2.34	2.41
通所リハビリテーションサービス利用率	%	6.32	7.06	7.80	8.53

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・「見える化」システムによって、訪問リハビリテーションのサービスの利用率を把握する。
  - ・「見える化」システムによって、通所リハビリテーションのサービスの利用率を把握する。
  - ・
  - ・
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

<b>タイトル</b>	要介護者等へのリハビリテーション	<b>年度</b>	令3/最終
-------------	------------------	-----------	-------

### 実施内容

- ① 管内には、リハビリステーションを提供する事業所はないが、在宅医療において、生活機能の維持・改善・向上、自立支援のため、近隣市町の事業者において適時適切なサービス提供を行うよう努めた。なお、総合事業において、短期集中サービスとして、理学療法士を派遣するサービスの提供を行う体制を整えているが、利用者はいなかった。
- ② 地域包括支援センターに理学療法士を配置しており、個別ケア会議において自立支援を目的と関与できる体制を整えている。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
訪問リハビリテーションサービス利用率	%	2.20	2.27	1.53	D
理由	2.20(令2.3)以降は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、利用率が低下しており、令和3年度の平均は1.53%となっている。				
通所リハビリテーションサービス利用率	%	6.32	7.06	6.7	C
理由	令和3年度の平均は6.70%であり、利用が伸びつつある。				
					選択
理由					
					選択
理由					

### 課題と対応策

必要な方へのリハビリテーションを提供する体制を整えてきており、今後は、サービスの提供につなげられるよう、リハビリテーションの効果等の周知を図り、利用を促していくことが求められる。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	介護人材の確保と業務効率化
------	---------------

### 現状と課題

人材確保は、介護現場における長年にわたっての課題となっています。本町でも、県が実施する人材確保事業などに関する情報提供を行い、人材の定着化を図っていますが、慢性的な人材不足が続いている状況です。今後も、介護の仕事に興味や関心を持ってもらいつつ、人材の確保の有効な方策を見定めていく必要があります。あわせて、介護現場の負担軽減に向けた取り組みを進めることも必要です。

### 第8期における具体的な取組

- ① 介護人材の育成・確保
- ② 業務効率化の促進

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
事業所における人材不足の実態把握	—	—	—	—	—

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・ 実態を把握するため、事業所への調査を行う。
  - ・
  - ・
  - ・
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	介護人材の確保と業務効率化	年度	令3/最終
------	---------------	----	-------

### 実施内容

- ① 高齢者や認知症の理解の促進や介護職の魅力を発信し次世代の人材確保の取組として、小・中学校の総合学習の場等を活用し、地域包括支援センター職員が講師となり、各1学年を対象に授業(講座)を行うため、町教育委員会と協議を進め、12月管内校長会にて、実施に向けた説明及び意見交換を実施した。
- ② 国・県より提供された介護ロボット等の開発・実証事業者の募集等の情報提供を行った。  
また、ケアマネ連絡会の場や各事業所に対し、押印の廃止による様式の変更の書式の提供や、総合事業等における指定・更新や各種申請書類、添付書類の一覧及び書式データを町ホームページ上に公開する等、事業所の文書事務等の負担の軽減の取組を実施した。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
事業所における人材不足の実態把握	—	—	—	1	B
理由	今年度コロナ感染防止にかかる議題が多くなり、予定していた事業者間会議での実態把握ができなかったが、個別に1事業所からの相談・意見聴取を行った。				選択
理由					選択
理由					選択
理由					選択

### 課題と対応策

介護人材の不足、非定着化は、人口減少や処遇面から今後大きな課題であり、管内事業所でもその傾向が見てとれる。今後は、外国人材の受入や介護ロボットの導入など多角的に検討する必要がある。また、管内には資源が限られているため、広域的な連携体制の構築の場が必要である。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	介護保険以外の入所・入居施設
------	----------------

### 現状と課題

65歳以上の人で身体上もしくは、精神上または環境上の理由で居宅での生活が困難な高齢者は、養護老人ホーム等に入所しています。また、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅は現在町内にはありませんが、周辺市町では立地が進んでおり、介護保険施設との住み分けや質の確保が課題とされています。今後も、引き続き動向を注視し、住まいの選択肢として必要性を見定めていくことが求められます。

### 第8期における具体的な取組

- ① 養護老人ホーム
- ② 有料老人ホーム等

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・
  - ・
  - ・
  - ・
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	介護保険以外の入所・入居施設	年度	令3/最終
------	----------------	----	-------

### 実施内容

- ① 新規入所対象者なし。  
前期より1名死亡により、3月末現在入所者4名。
  
- ② 県が登録許可する町内へのサービス付き高齢者住宅整備に向けて、県からの意見照会があった。令和4年6月からデイサービスを併設した上記高齢者住宅が稼働予定である。

### 自己評価結果

	指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
						選択
理由						
						選択
理由						
						選択
理由						
						選択
理由						
						選択
理由						

### 課題と対応策

町内で初めてのデイサービスを併設したサービス付き高齢者住宅が来年度稼働予定である。今後は事業者がニーズを超えた過剰なサービスを行っていないかを点検していく必要がある。

また、開設時は、特定施設入所者生活介護サービスの県指定は受けない予定であるが、今後は、ニーズ等を把握し、次期事業計画で検討していく必要がある。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	介護者への支援
------	---------

### 現状と課題

介護者への支援としては、介護家族を対象に「体験型カフェつどい」を開催し、閉じこもりがちな住民や介護者が外出する機会をつくっています。また、この外出をきっかけとして、必要なサービスにつなげることができています。「体験型カフェつどい」は介護者どうしの情報交換、負担軽減、知識等の習得に有効であることから、今後も充実を図ることが求められます。一方、介護家族の経済的・身体的な負担を軽減するため、紙おむつ等の提供を継続しており、状況に合わせた説明・案内を行っています。

### 第8期における具体的な取組

- ① 介護者研修会・交流会の開催
- ② 介護家族への支援

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
介護者支援の開催回数	回	10	11	11	11
「体験型カフェつどい」の延べ参加人数	人	150	160	170	180

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・ 介護者に対する研修会の開催回数をカウントする。
  - ・ 「体験型カフェつどい」に参加した人の延べ人数をカウントする。
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	介護者への支援	年度	令3/最終
------	---------	----	-------

### 実施内容

- ① 「体験型カフェつどい」を感染対策に留意し9回開催した。延べ175名(実人数27名)の参加があった。2回感染拡大時に中止となったが、参加者の状況確認を電話にて実施した。
- ② 「体験型カフェつどい」に支援対象者が参加し介護サービス利用につながり、介護者のレスパイトケアを行う事が出来た。紙おむつ給付サービス高齢者登録者数延べ1042人。配達延べ728人。障害者登録者延べ150人。配達延べ人数120人。理髪サービスは高齢者登録者数延べ16人。利用者延べ12人。障害者登録者延べ79人。利用者延べ54人。紙おむつ・理髪サービスの有効かつ、負担軽減のため円滑な事務対応を心掛けており、状況に合わせた説明・案内が出来るよう努めている。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
介護者支援の開催回数	回	10	11	9	C
理由	感染対策のため計画値を下回った。				
「体験型カフェつどい」の延べ参加人数	人	150	160	175	B
理由	新型コロナ感染予防の観点から参加人数を縮小しているが、計画値を上回っている。				
					選択
理由					
					選択
理由					

### 課題と対応策

新型コロナ感染予防のため、介護者研修会、「体験型カフェつどい」について対策を施しながら実施することができ計画値を上回る参加を得ることができた。新型コロナなど不透明な要素があり、介護者の不安も増大していることが推測されることから、工夫をしながら介護者支援を継続していくことが求められる。



## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	ひとり暮らし高齢者等への支援
------	----------------

### 現状と課題

ひとり暮らし高齢者等への支援として、配食サービス、ふれあいホームヘルプサービス、ふれあいデイサービスなどは、引き続き、任意事業として実施しています。これらは、介護保険サービスや介護予防事業などを補完するものとして効果を発揮し、認定率の低下につながっています。今後は、各種サービスについて、利用者のニーズに適しているかどうか検討し、必要に応じて見直していくことが求められます。

### 第8期における具体的な取組

- ① 配食サービスの推進
- ② 緊急通報体制の確保
- ③ 在宅サービスの推進
- ④ 日常生活用具の給付

### 目標(事業内容、指標等)

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
配食サービスの延べ利用者数	人	450	450	450	450
緊急通報装置の月平均利用者数	人	9	10	10	10
ふれあいホームヘルプサービスの延べ利用時間	時間	390	750	750	750
ふれあいデイサービスの延べ利用者数	人	1,700	3,800	3,800	3,800

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・ 配食サービスの延べ利用人数をカウントする。
  - ・ 緊急通報装置の年間延べ利用人数を12か月で除し、月平均利用人数をカウントする。
  - ・ ふれあいホームヘルプサービスの延べ利用時間をカウントする。
  - ・ ふれあいデイサービスの延べ利用人数をカウントする。

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	ひとり暮らし高齢者等への支援	年度	令3/最終
------	----------------	----	-------

### 実施内容

- ① 登録者数延べ481人で、配食数が7735食であった。不在安否確認対応は13件で、体調不良の早期発見・対応に繋がった。
- ② 要緊急通報体制のひとり暮らし高齢者に対しサービスの提案を行い、有効的なサービスの利用に繋がっている。最大11名の方が利用していたが、施設入所や死亡等により年度末利用者は8名である。  
また、民間事業者(コープみえ)と高齢者の見守り協定を締結し地域や事業者との連携による見守り体制の強化を行った。
- ③ 認定を受けていない支援が必要な高齢者に対し、ふれあいサービスの案内も行い、ニーズに応じたサービスに繋がっている。また、早期対応によって要介護状態への予防に繋がっている。
- ④ 日常生活用具給付は、申請がなく助成していない。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
配食サービスの延べ利用者数	人	450	450	481	A
理由	サービス再開、新規利用者が増え、計画値より上回った。				
緊急通報装置の月平均利用者数	人	9	10	10	B
理由	新規の利用者2名、死亡、施設入所等による撤去3名				
ふれあいホームヘルプサービスの延べ利用時間	時間	390	750	791	A
理由	緊急事態宣言により、8月下旬～9月末まで事業を中止したが、コロナ禍にあり支援が必要な高齢者が増加傾向であり、計画を上回った。				
ふれあいデイサービスの延べ利用者数	人	1,700	3,800	2,784	D
理由	感染対策のため利用人数の制限を続けており、また、緊急事態宣言により、8月下旬～9月末まで事業を中止した。				
					選択
理由					

### 課題と対応策

配食料金の支払いがご自身で対応できない利用者が増加しており、対応策の検討が必要と思われる。こうした介護保険外のサービスについても、必要な人が利用できるよう、ケアマネジャー等への周知を検討することが求められる。

感染対策のため、ふれあいデイサービスは利用者数の制限を行っており、支援が必要な方の心身機能の低下がみられるため、来年度は土曜日の実施を行い、コロナ前の水準まで利用者が利用できる体制の確保を検討している。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	低所得者対策の実施
------	-----------

### 現状と課題

低所得者対策としては、保険料の所得段階を多段階（11段階）に設定し、所得の低い層への軽減を図っています。また、社会福祉法人等による利用者負担額の軽減措置や貸付制度についても、法の基準に沿って実施しています。今後も、低所得者への配慮を行うことが必要です。

### 第8期における具体的な取組

- ① 保険料の負担軽減
- ② 利用者負担の緩和
- ③ 貸付制度の実施

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・
  - ・
  - ・
  - ・
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	低所得者対策の実施	年度	令3/最終
------	-----------	----	-------

### 実施内容

- ① 法令に基づき保険料段階が第1～3段階693名分の保険料の軽減を行い、軽減分については、国1/2、県1/4、町1/4の負担で介護保険会計へ交付金の申請を行い、交付金の決定・受入を行った。
- ② 非課税世帯等の施設サービス利用者を対象とした、居住費、食費等を軽減する特定入所者介護サービスについては、8月からの負担限度額の改正に伴い、施設へ情報共有を行い利用者へ案内いただくなど制度の周知・啓発を行った。なお、新規申請を含む62名を軽減対象者に認定した。  
また、低所得者で生計が困難な方への介護サービスの利用者負担を軽減する社会福祉法人等による利用者負担軽減制度については、対象者は2名を申請に基づき認定した。
- ③ 実績なし。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
					選択
理由					
					選択
理由					
					選択
理由					
					選択
理由					

### 課題と対応策

制度に基づき進めており、今後も適正に対応していく必要がある。  
また、利用者負担軽減等については、利用者からの申請が必要なことから、利用者への啓発とともに事業所へも情報提供を行い、広く利用者等へ制度の周知を図っていくことが必要である。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	給付の適正化
------	--------

### 現状と課題

給付の適正化を図るため、要介護認定の適正化、ケアプラン点検、住宅改修等の点検、縦覧点検・医療情報との突合、介護給付費の通知といった5事業に取り組んでいます。今後も、各点検等を実施し、介護給付費の適正化やケアマネジャーの資質向上につなげる必要があります。

### 第8期における具体的な取組

- ① 要介護認定の適正化
- ② ケアプランの点検
- ③ 住宅改修等の点検
- ④ 縦覧点検・医療情報との突合
- ⑤ 介護給付費の通知

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込
認定調査員の研修回数	回	0	8	8	8
ケアプラン点検数	件	1	10	10	10
住宅改修・福祉用具点検数	件	48	50	50	50
縦覧点検・医療情報突合数	件	9,500	10,000	10,000	10,000
介護給付費通知数	件	680	700	710	720

### 目標の評価方法

- 時点  
 中間見直しあり                       実績評価のみ
- 評価の方法
- ・ 認定調査員に対する研修回数をカウントする。
  - ・ ケアプラン点検を行った件数をカウントする。
  - ・ 住宅改修及び福祉用具購入にかかる点検を行った件数をカウントする。
  - ・ 縦覧点検及び医療情報との突合を行った件数をカウントする。
  - ・ 介護給付費の通知件数をカウントする。

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	給付の適正化	年度	令3/最終
------	--------	----	-------

### 実施内容

- ① 新型コロナ感染防止のため、本年度も県主催の認定調査員研修が実施予定がない。今後はe-ラーニングを活用した調査員のスキルアップを進めていくため、調査員へのe-ラーニングの周知と再度ID発行を行った。
- ② 居宅介護支援事業所への実施指導に併せて、ケアプラン点検8件分を実施した。
- ③ 住宅改修については、ケアマネがケアプランに即して作成する「必要とする理由書」や工事施行前後の写真等を確認し、点検を行った。
- ④ 国民健康保険連合会(国保連)の適正化システムから出力される6帳票にかかる縦覧点検と医療保険と介護サービスの重複等、医療情報との突合について、国保連へ委託し実施した。また、点検結果に応じて国保連を通じて事業所へ照会を行い、過誤請求の発見等に役立てた。
- ⑤ 半年分のサービス利用給付費について、5月と11月に介護給付費通知を行い、利用者やその家族に対して、自ら受けているサービスを改めて確認し、適正なサービス提供に繋がるよう取組みを行った。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
認定調査員の研修回数	回	0	8		D
理由	新型コロナウイルスの感染拡大により、本年度も県主催の認定調査員研修の実施予定がない。				
ケアプラン点検数	件	1	10	8	B
理由	居宅介護支援事業の実地指導に併せて、ケアプランの点検を行った。				
住宅改修・福祉用具点検数	件	48	50	56	B
理由	住宅改修の工事写真や理由書等の点検、福祉用具申請に基づく要介護度や理由等による必要性の点検を行った。				
縦覧点検・医療情報突合数	件	9,500	10,000	9,629	B
理由	R3.3～R4.3月審査分の内、償還分を除く総件数を計上。国保連合会に委託し、点検・突合を行った。				
介護給付費通知数	件	680	700	660	B
理由	給付対象者全員に半期分を2回送付した。				

### 課題と対応策

各点検を実施し、介護給付費の適正化やケアマネージャーの資質向上につなげるとともに、保険者機能の強化にも結びつけるため、適正化事業5事業を実施する体制づくりが必要である。また、コロナ後の認定及び給付の急激な増加を注視することが求められる。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	事業の適正運営
------	---------

### 現状と課題

地域密着型サービスについては、適正な事業所運営がなされるよう実地指導を行いました。今後も、引き続き、実地指導等により適正運営につなげていくことが求められます。また、地域包括支援センターへ各種サービスを委託していますが、いずれも適切に提供されています。

### 第8期における具体的な取組

- ① 地域密着型サービスの適正運営
- ② 地域包括支援センターの適正運営

### 目標（事業内容、指標等）

指標名	単位	令2実績	令3見込	令4見込	令5見込

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・
  - ・
  - ・
  - ・
  - ・

## 取組と目標に対する自己評価シート

タイトル	事業の適正運営	年度	令3/最終
------	---------	----	-------

### 実施内容

- ① 新たな事業者指定はなかった。  
 実地指導について、今年度は新型コロナ感染対策のため、町指定の居宅介護支援事業所の指導に切り換えて実施した。
- ② 地域包括支援センターへ各種サービスについて委託しており、適切に提供されている。

### 自己評価結果

指標名	単位	令2実績	令3計画値	令3実績値	評価
					選択
理由					
					選択
理由					
					選択
理由					
					選択
理由					
					選択
理由					

### 課題と対応策

地域密着型サービスと地域包括支援センターについては適正に運営されているが、今後は、より客観的な評価を行うことが求められる。